

難聴児の切れ目ない支援体制 構築に向けた島根県の取組



まめなくん

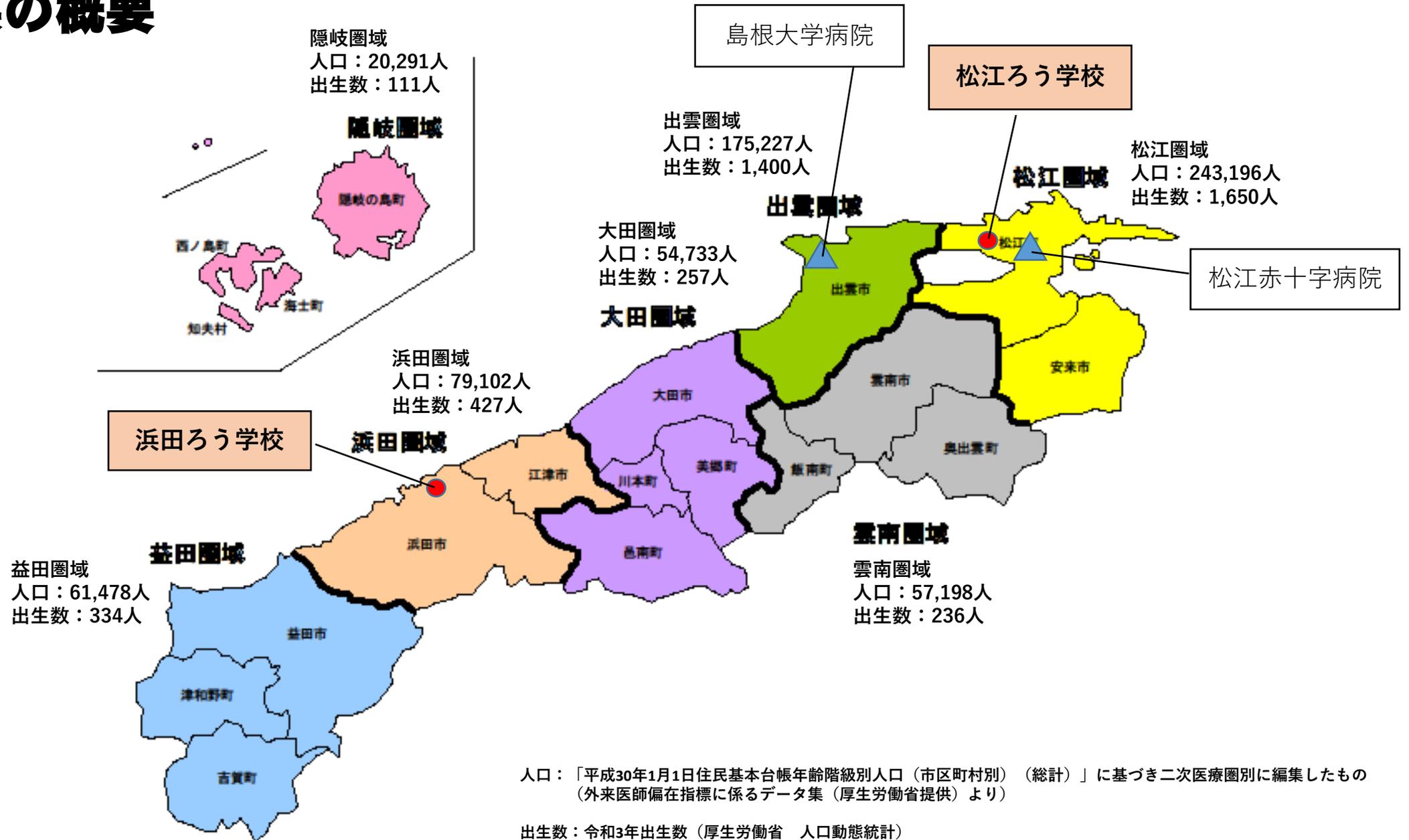
健康長寿をあらわす「まめな」
という言葉がモチーフ



健康長寿しまねのマスコットキャラクター

松江市・島根県共同設置松江保健所
健康増進課 堀江亜由美

島根県の概要



島根県市町村の新生児聴覚検査実施状況（令和2年度）

令和2年度母子保健事業に係る実施状況調査（厚生労働省）より

受検者数を把握している市町村における受検率	97.5%
確認検査受検把握率	84.2%
精密検査受検把握率	89.5%
初回検査公費負担	12市町村（63.2%）
要支援児への指導援助体制整備	16市町村（84.2%）

【精密検査結果】

(人)

正 常	2
両側性難聴	2
一側性難聴	8
評価不能	1
不 明	1



松江圏域新生児聴覚検査支援連絡会の経過



	松江圏域新生児聴覚検査支援連絡会の動き	島根県の動き
H18	「松江市新生児聴覚検査支援連絡会」発足 (事務局：松江ろう学校)	
H19	安来市が加わり「松江圏域新生児聴覚検査支援連絡会」となる * 県健康福祉部が「サバ」参加	県健康福祉部 体制整備の検討
H20		「新生児聴覚スクリーニングと聴覚障害児支援のための手引」作成 関係者向け研修会の開催 県庁主催
H21	一側性難聴の相談件数増加への対応策検討	島根県新生児聴覚検査実施体制検討会開催 県庁主催
H22		上記会議開催、身障手帳がない児への補聴器購入助成がないことでの課題共有
H23	事務局を保健所に移管 新効実施医療機関が全院出席	「一側性難聴児への配慮について」チラシ作成・県HP掲載

松江圏域新生児聴覚検査支援連絡会の目的

新生児聴覚検査に関わる松江圏域の産科、耳鼻科、小児科の医療機関や行政、教育機関が一堂に会し、情報共有や課題検討を行い、聴覚障がい児と保護者・家族に適切な支援が行われるよう、聴覚障がいの支援ネットワークの強化を図る。



松江圏域新生児聴覚検査支援連絡会 構成員

【実施主体】

松江市・島根県共同設置松江保健所

【参加者】

- ・産科医院（圏域内分娩取扱医療機関） 4施設
- ・耳鼻科（病院：日赤、松江市立、島根大学、鳥取大学、 医院：1施設）
- ・小児科医院 1施設
- ・行政機関
 - 松江市（子育て支援センター・障がい者福祉課）
 - 安来市（子ども未来課・福祉課）、雲南保健所、出雲保健所
- ・教育・療育機関 松江ろう学校（校長・乳幼児教育相談担当）



松江圏域の取組

	松江圏域新生児聴覚検査連絡会での検討事項	対 応
H23	新生児聴覚検査結果を把握し、支援につなげる必要性 島根県新生児聴覚検査実施体制検討会での検討事項の共有 ・ 新生児等養育連絡票への聴覚検査結果の記入 ・ 軽度・中等度難聴児の補聴器購入助成のニーズ	周産期医療施設が母子健康手帳に聴覚検査結果を貼付することを徹底する。
H24	県の軽度・中等度難聴児の補聴器購入助成制度開始となったが、年齢制限（就学年齢以上）があり、早期支援をする上で課題がある。	課題を県庁担当課に伝えた。 翌年から対象年齢が3歳以上に変更となる。
H25	一側性難聴児支援の課題（精密検査結果が一側性難聴の場合、医療機関から行政保健担当に情報が提供されない場合あり。）	精密検査医療機関から行政保健担当に情報を提供することを共有した。
H26	一側性難聴児支援の課題（受診中断等があり、二次的障害が生じることがある。フォローが必要な児をどのようにつなげばよいかわからない。）	既存パンフレット「一側性難聴児への配慮について」の裏面に圏域における相談窓口を記載。
H27	・ 軽度・中等度難聴児の補聴器助成の課題（対象年齢に地域差がある。） ・ 今後の連絡会の持ち方について	課題を県庁担当課に伝えた。 1年間のケースの振り返りの場としていく。
H28	新生児聴覚検査（確認検査）でパスだった児がその後両側難聴の診断となったケースについて共有。	検査実施だけでなく、検査後の日常生活での観察や母子保健事業で聴覚障がいに対する意識向上の重要性を共有した。 連携推進のため、雲南保健所も参画

松江圏域の取組

	松江圏域新生児聴覚検査連絡会での検討事項	対 応
H29	<ul style="list-style-type: none"> ・ 軽度・中等度難聴児のイヤーマールド交換費およびデジタル補聴システム購入費助成の必要性 ・ 今後の連絡会の持ち方について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を県庁担当課に伝えた。 ・ 新生児聴覚検査実施を含めた聴覚障がい児の支援全般に関する現状の共有や課題検討を行う場とする。
H30	軽度・中等度難聴児のイヤーマールド交換費助成の必要性（高額のため交換できず合っていないまま使用している。）	軽度・中等度難聴児のイヤーマールド交換費助成の要望について、県庁担当課へ報告。
R1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 軽度・中等度難聴児のイヤーマールド交換費や義耳購入費の助成の必要性 ・ サイトメガロウイルスについて共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 左記について、県庁担当課へ報告。 ・ 義耳については、県庁から厚生労働省へ要望書を提出。
R2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精密検査未実施児のフォロー体制の確認、サイトメガロウイルスの早期発見、早期治療について共有 ・ 軽度・中等度難聴児、一側性難聴児の補聴援助システムの推奨と公的助成の必要性 	軽度・中等度難聴児、一側性難聴児の補聴援助システムの公的助成について、県庁担当課へ報告。
R3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 軽度・中等度難聴児、一側性難聴児の補聴援助システムの推奨と公的助成の必要性 ・ 新生児聴覚検査の公費負担状況と検査および精密検査未実施児のフォロー体制の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 軽度・中等度難聴児、一側性難聴児の補聴援助システムの公的助成について、県庁担当課へ報告。 ・ 出雲圏域での新生児聴覚検査連携体制を検討するため、出雲保健所参画

H24 軽度・中等度難聴児補聴器購入助成事業開始、 H25・28 対象年齢拡大
R3 軽度・中等度難聴児のイヤーマールド交換費助成開始

松江圏域の取組

【令和4年度】



①昨年度の本会の振り返り

②新生児聴覚検査実施状況について

各市町実施状況、松江赤十字病院での精密検査結果報告

③聴覚障がい児への支援

松江ろう学校における聴覚障がい児への支援の現状

④情報共有等

- ・新生児聴覚検査や精密検査未実施の児の把握方法やフォロー体制等について
R4.7.21付 事務連絡(厚生労働省子ども家庭局母子保健課)

「新生児聴覚検査費に係る受検者の経済的負担の軽減について」共有

- ・軽度・中等度難聴児、一側性難聴児の補聴援助システムの推奨と公的助成の必要性

- ・聴覚障害児支援中核機能モデル事業について

- ・難聴児の早期発見・早期療育推進のための基本方針について

松江圏域新生児聴覚検査支援連絡会の成果

- 新生児聴覚検査に関わっている医療機関や関係機関の支援状況や連携体制は充実してきている。
- 課題等を県庁担当課に報告し施策につながった。
 - 新生児聴覚検査結果を母子健康手帳への貼付の徹底
 - 補聴器助成の軽度・中等度難聴児への拡大
 - 一側性難聴や小耳症の支援
 - 軽度・中等度難聴のイヤモールド購入費助成 など



島根県新生児聴覚検査連絡協議会

【目的】

新生児に対する検査が適切に実施され、検査により把握された要支援児及びその保護者に対し多面的で切れ目のない支援が提供されるよう、支援体制を構築する。

【事務局】

島根県健康福祉部健康推進課、障がい者福祉課、教育委員会特別支援教育課

【構成員】

県内医療機関における耳鼻咽喉科、産婦人科、小児科医師等の医療関係者、ろう学校等の学校関係者、保健・福祉・教育の行政関係者

島根県の今後の取組

1. 新生児聴覚検査費用の公費負担未実施市町村への働きかけ
2. 支援の必要なケース（リファーマー判定児・難聴児及びその家族）が、早期に専門的機関につながり、ドロップアウトを防止するため、丁寧なフォローアップとなるよう、市町村の取組状況の把握及び支援体制構築への働きかけ
3. 全県的な連携を推進し、地域間における取組格差解消を図るため、当協議会の継続開催及び東部・西部ブロックにおける連絡会の継続開催
4. 軽度・中等度難聴及び一側性難聴児への福祉制度拡充については、丁寧な実態把握を踏まえて検討
5. 難聴児支援に従事する関係者の資質向上に向けて、今年度から取組を始めた症例検討会を継続（島根大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科）